



▲すき間のある田んぼ



▲作物を作らない田んぼ

ところで、「米どころ」と言われるわたしたちの町や村でも、このごろ上の写真のような田んぼをよく見かけます。

これは、国民の米を食べる量^{りょう}が年々へってきているため、米づくりを制限しているためです。これを減反^{げんたん}（生産調整^{せいさんちようせい}）と言います。村では減反した田んぼには代わり^かの作物を作るようにすすめています。長年水を入れた田んぼは、しめっぽいため、ほかの作物が作りにくくなっています。

このようなことは、畑でも見られることがあります。それは、農業で働く人が歳^{とし}をとり、後^つを継いでくれる人がいないため、やむを得ず作物づくりをやめてしまった畑です。このような畑を「耕作放棄地^{こうさくほうきち}」と言います。耕作放棄地^{せんぎょう}は専業農家^{せんぎょう}に買ってもらったり、代わって作物を作ってくれる人をさがして耕作してもらうように、役場やJAの人たちが努力しています。

最近、健康に対する国民の考えが高まり、安全でおいしい農作物を求め^{しょうひしや}る消費者と農家との交流^{こうりゆう}がさかんになってきました。これまで農家は、どこのだれが食べてくれるのかがわからないまま生産し、消費者もまた、どこのだれが



▲消費者との交流